

2025 年度（第 34 回）日本マレーシア学会（JAMS）研究大会 ポスターセッション要旨集

〈ポスター発表 1〉

北京女性会議から 30 年
荒川 朋子（NPA）

1995 年の北京女性会議にマレーシア代表団が参加し、男女平等や女性の権利拡大の国際的議論に触れた。これを契機に、マレーシア政府は女性の教育・雇用促進や政治参画支援策を強化し、国内政策におけるジェンダー平等推進が加速した。

〈ポスター発表 2〉

ウミガメ保護と現地大学生との交流
太田 優那、川名 菜々子、杉崎 真比呂、徳永 麗奈（立教大学観光学部）

トレンガヌ大学の実習サイトである、マレーシア東海岸の離島で実施されたウミガメ保護活動と、現地学生との文化交流を通じて得られた知見について報告する。東海岸離島での生活環境下で、産卵観察や巡回パトロールなどの保護作業に参加したことで、生命保全の重要性や日常生活資源の価値を再認識した。また、現地学生との交流を通じて日本文化を紹介する過程で自文化への理解が深まり、食事体験からマレーシアの食文化やイスラーム文化への理解も深まった。これらの経験は異文化理解と環境保全への意識向上に寄与するものであった。

〈ポスター発表 3〉

タイの 2020 年学生運動におけるロイヤリストの SNS 投稿分析
—ワチラロンコン国王に対して揺らぐロイヤリスト
澤田 瑞花（津田塾大学学芸学部）

本報告は、学生により王制改革の要求がなされたタイの 2020 年学生運動に対し、王制への支持を表明したロイヤリストの反応に着目し、その一側面としてワチラロンコン現国王に対する SNS 上の評価について、ロイヤリストメディアおよび草の根ロイヤリストの Facebook や X の投稿を分析する。ロイヤリストメディアでは現国王に対する肯定的な投稿のみが見られる一方、草の根ロイヤリストには、現国王がロイヤリストの「不安」を解消してくれるという「信頼」を十分に置いていないと考えられる否定的な投稿もあり、現国王に対するロイヤリストの評価の揺らぎが確認された。このようなタイの事例はマレーシアを含む東南アジア諸国における王制と政治の関係を考える際の参考になる。

〈ポスター発表 4〉

「主婦」ではない「イブ・ルマタンガ」像

—インドネシア・イスラーム女性組織アイシャ機関紙 1990-1991 年号の分析を通じて

赤澤 詠子（上智大学大学院）

本発表では、インドネシアのイスラーム女性団体アイシャの機関誌『Suara Aisyiyah』1990～1991 年号から、同誌のイブ・ルマタンガ像を分析し、日本語で想起される主婦像やインドネシア国家が想定する女性像との相違を検討する。日本語の主婦像は愛情に基づき家事に専念する代替不可能な存在として想像される。一方アイシャの示すイブ・ルマタンガは、家計貢献や子どもの宗教教育、社会活動にも関与する主体として描かれる。この点は、国家開発政策の中の女性像とも必ずしも一致しない。以上から、アイシャにおいては、家庭を基盤としながらも、公的主体性と宗教的リーダーシップを担う存在としてのイブ・ルマタンガ像が形成されていることが明らかとなった。

〈ポスター発表 5〉

CLC（コミュニティ・ラーニング・センター）と住民参加型の教育開発

真下 萌奈（津田塾大学学芸学部）

本研究は、住民参加型の CLC（コミュニティ・ラーニング・センター）の役割と持続性を検証する。タイ都市部では、貧困と移民増加によって生じた教育格差の改善が課題である。そこで、都市スラムであるクロントイ地区の CLC（コミュニティ図書館）を調査し、多文化社会における教育開発の鍵を探る。そして、効果的な CLC 運営には、住民の意見と地域の状況に対応した改善、住民の主体的な参加が重要であることを提言する。このタイの事例はマレーシアの都市部における地域教育や住民参加の取り組みを考える上でも参考になる。

〈ポスター発表 6〉

マレーシアのコピティアムチェーン店における華人表象

リトウキ（上智大学大学院）

本発表はマレーシアの Old Town White Coffee と Oriental Kopi という 2 つのコピティアム（カフェ）のチェーン店を対象にし、企業のブランド構築における「華人」の表象をポストコロニアリズムにおけるハイブリティティの理論とトランスナショナルの理論で分析する。コピティアムのチェーン店の「華人」は「海南華人」と「南洋華人」に分けられ、本発表は華人表象の背後にある交差性と再構築の歴史的なプロセスを明らかにする。